

2050年 活力ある長崎のカたち

長崎会の情報はこちら

<http://www.jia-9.org/nagasaki/>

一万人の世界建築家展

<http://www.10000architects.com/?jp>

県内交通を最大2時間圏内に…

今年3月の東日本大震災は稀に起こる自然の大災害に対する対応が社会的な課題としてクローズアップされ、緊急時の高速交通及び情報のネットワーク構築とリダンダンシーの向上の重要性が再認識されました。

長崎県内各地域に点在するターミナルや空港などから新たな航路を開拓するなど、「陸・海・空のインフラ」を再整備し、高速交通のネットワークを構築することで、これまで交流のなかった地域間のコミュニケーションの活性化と有事の際の迅速な対応を可能とし、豊で安全・安心な街づくりにつなげていくことができると考えます。

■ 島の多様性を生かす

離島の自然、歴史、文化、風土などの特性に基づいたハード、ソフトの両面から魅力ある地域づくりの展開が重要です。

■ アジアの世紀 海外との友好関係と地の利を生かす

長崎県の島々には原の辻遺跡、元寇史跡、遣唐使・遣隋使、朝鮮通信史など中国や朝鮮半島の豊かな交流の歴史が歴史的遺産として残されており、現在もこれらの地域との積極的交流が進められています。

以上のことを実現するために航路、航空路、県内交通、島内交通などの総合的交通体系の整備及び利用しやすいダイヤの確保と運賃の低廉化、さらには高速通信網の施設整備と情報通信ネットワークの早期構築が望まれます。



海岸線の長さが全国2位の長崎県は、県内のほとんどが離島と半島で構成されており、県内にある約600の島々のうち有人島は55を数えます。これらの地域は長崎県土面積の4割を占め、県の人口の1割弱の約12万8千人の人々が暮らしています。離島という地理的ハンディや台風などの自然災害のリスクから、人口減と少子高齢化が著しく経済は衰退の一途をたどっています。1970年の県内の離島人口は27万6千人であったのが、現在までの40年の間に14万8千人も減少しており、離島人口の減少数は県内人口の減少数にほぼ等しい数です。すなわち離島人口の減少は我が県にとって大変深刻な問題であるといえます。本県の島々は日本の領域、排他的経済水域などの保全、海洋資源の利用、自然環境の保全など国にとっても重要な役割を果たしています。このことをより強固に進めるためにも離島の活性化は必要です。私たちは2050年には40年前の離島人口に戻ることを願っています。豊かな地域の力を生かし、人・モノ・カネ・情報の流れを拡大・加速し、交流人口を増やすことが、地域の活性化には重要な要素であると考えます。そのために私たちは、JIAの活動と共に日々考えて行動していきたいと思ひます。



長崎会会員名簿(五十音順)

有馬一郎 池田賢一 石山義朗 井上正雄

江原克彦 奥村信幸 嘉松忠昭 木場耕志

佐々木信明 田中健一郎 辻田直太郎 寺崎敏彦

中野善弘 中村信夫 鼻崎象三 松本隆之

三好定和 山田宏彰 吉原殖男